

研究例会報告

《第 390 回》

日時：2023 年 11 月 3 日（金）19：00～20：30

テーマ：図書館員が三足のわらじを履いて：司書・作家・司書課程教員

発表者：小曾川真貴氏（司書・作家・司書課程教員）

会場：大阪市中央公会堂 第 4 会議室

参加者：23 名

1. はじめに

発表者は現在自身の職業を「司書・作家・司書課程教員」と定義づけており、愛知県を中心に多岐にわたる活動を展開している。職場だけにとどまらない図書館員のキャリア形成や執筆活動について考える一助として、本研究例会を開催した。

2. 公共図書館員（～2022）

本と図書館にまつわる思い出を中心とした、幼少期から大学院時代までの自身のプロフィール、就職氷河期世代で公共図書館に非常勤職員（のちに会計年度任用職員）として入職したこと、公共図書館での実際の業務についてなどが語られた。

勤務館では様々な業務に携わり、長年手つかずになっていた和本の整理なども行ったということである。

3. 司書（課外活動）

契約が月 15 日勤務であったため、「月 5 日は何かできるのでは？」と考え、図書館関係の団体、趣味の活動などを行った。職場での研修の機会が少なく、「他の図書館はどうしているのか？」という疑問を持った」というのが動機である。

これまでに参加した団体・関わった活動として、なごやレファレンス探検隊¹⁾、愛知図書館協会²⁾、図書館サービス計画研究所（略称「トサケン」）³⁾、Future Librarian Under 40、中部図書館情報学会⁴⁾、としょけっと⁵⁾などが紹介された。

4. 作家

ここでいう作家とは、いわゆる狭義の“小説家”ではなく、広義の“文筆家”や“執筆活動”を指すということである。詳細は発表者の researchmap⁶⁾にまとめられているが、『司書のお仕事』『司書のお仕事 2』の監修や、『調べ物に役立つ図書館のデー

タベース』執筆の経緯などについて語られた。

5. 認定司書と司書課程教員

2014 年に執筆した論文⁷⁾で認定司書を取得したのち、日本図書館協会の図書館基礎講座「現代の図書館の動向」の講師、大学の司書課程非常勤講師として複数の科目を担当している。認定司書を持っているという事は、“論文が書ける司書”と認識されるのではないかという考察があった。

6. 質疑応答

「会計年度任用職員として働くこと」「サブカルチャー資料の収集について」「これからの図書館サービスの在り方について」など、さまざまな質問が寄せられ、活発な質疑応答が行われた。

発表者はこれからの図書館サービスを考える一助として、この例会直前に開催された「名古屋市図書館 100 周年記念事業・Book Mobile サミット」について触れ、「BM の事例を色々と聞いて感銘を受けるところがあった。人に本や情報を届けるという仕事はまだ必要だと再認識できた。これまでの図書館の歴史を知ることが重要。そこから新しいことを見出す視点が必要ではないか」という意見を述べられた。

【参考】

1) なごやレファレンス探検隊

<http://reftan.web.fc2.com/>

2) 愛知図書館協会

<https://websv.aichi-pref-library.jp/ala/>

3) 図書館サービス計画研究所

<https://sites.google.com/site/tosaken23>

4) 中部図書館情報学会

<https://sites.google.com/view/chuublils/>

5) としょけっと

<https://tosyoket.com/>

6) researchmap 小曾川真貴

<https://researchmap.jp/kosogawa>

7) 小曾川真貴. やおい、JUNE、BL、そして腐女子：腐文化研究事始め. 中部図書館情報学会誌. 2014, 54(96), p. 17-28.

https://doi.org/10.57491/chuubuslis.54.96_17

(文責 徳田恵里)